

	課題（児童の実態、学習状況、指導の実態）	改善プラン（課題の改善プラン、具体的な手だて）
国語	<ul style="list-style-type: none"> 物語文や説明文を読む学習では、叙述に即して心情等を読み取ったり、根拠を明確にして大切な情報を読み取ったりする力が不十分である。 書く活動に意欲的に取り組める児童が多いが、より分かりやすく正しく伝わるように工夫したり、文章を推敲したりする力が不十分である。 自分の考えを積極的に伝えることができる児童もいるが、相手の立場や意図を考えながら聞く力を身に付ける必要がある。 学習した漢字を日常的に意識して使う児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語文や説明文を読み取るときに、ポイントとなる言葉や文章に着目させるとともに、常に本文に立ち返らせながら根拠を明確にして自分の考えを組み立てるよう指導する。 書く内容について項目立てをさせて、文章構成を考えながら整理させたり、教科書等の手本を真似て接続詞や文末表現を工夫させたりすることで、分かりやすい文章を書くことができるようにしていく。 ねらいを明確に提示してそれを意識させて「話す・聞く」の活動に取り組ませる。相手の立場や意図を考えたり、自分の意見と比べて共通点や類似点、相違点に着目したりしながら聞くことを指導する。 漢字の指導等を通して、ドリルや漢字辞典を使いながら、必ず既習の漢字を用いて文を書くように指導する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象について興味・関心をもっている児童もいるが、方角・都道府県等の基礎的事項の理解や、地図の読み方などの技能の面で習熟が不十分な児童が多い。また、歴史的事象や人物への興味・関心も個人差が大きい。 資料から学習問題を立てたり、調べたりする活動に意欲的に取り組む児童もいるが、複数の資料を比較・総合し、そこから考えようとする態度が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的事象や人物に対する興味・関心を深められるような資料を用いて、自分なりの気づきや考えをもたせるとともに、それらを交流する場を多く設ける。また、我が国の伝統や文化が長い歴史を経て築かれてきたものであること、そうした遠い祖先の生活、人々の工夫や努力にも目を向けさせ、今日の自分達の生活と深く関わっていることに気付かせる。 資料の見方を丁寧に指導していくとともに、複数の資料を参照するときには資料を読み取る視点を示し、比較させたり、分析・統合させたりする。また資料から読み取れる事実を全体で丁寧に確認した上で、そこから考えられる事柄を表現させる。

算数	<ul style="list-style-type: none"> ・5展開の習熟別指導を行っている。 ・既習である基礎的な知識や技能が定着していない児童、算数科に対する強い苦手意識をもつ児童も少なくない。 ・問題解決型の学習に意欲的に取り組める児童もいるが、問題解決に向けて試行錯誤すること自体に苦手意識をもつ児童も少なくない。 ・自分の考えを筋道立てて表現することについて、個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算などの基礎的な知識や技能は簡単な問題から取り組み、反復練習や個別指導を行うなど児童の実態に応じて習熟させる。 ・計算式だけでなく、言葉や図・絵などを用いて考えさせることで、筋道立てて問題解決ができるようにしていく。また、自分の考えを表現させる際にも、式はもちろんのこと、言葉、図・絵などを用いて表現させるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に留意し、実験や観察などに自ら進んで取り組む児童が多くみられる。その一方で、予想を立てて、実験の結果から考察して結論を導くことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察に取り組む前に予想や仮説を立てる時間を確保してから実験や観察を行う。 ・実験結果から児童間で話し合いをしてまとめを引き出すようにする。 ・実物の提示が難しいときは、映像や画像を提示するなど、ICT 機器を効果的に活用する。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かしたり、ゲームに取り組んだりすることに意欲的な児童が多いが、苦手な運動内容に対しては積極性に欠ける面も見られる。 ・自らの体の動かし方をふり返り、よりよい動きにしていこうとすることや練習方法を工夫していくことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動のポイントを明確に提示することで、児童がポイントを意識して運動に取り組めるようにする。 ・授業の中に自己評価や相互評価の機会を設け、児童が自分で考えながら動きを工夫したり、練習方法を工夫したりしていけるようにする。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・学年全体では、授業に集中して取り組む生徒が多い。被服実習などにもよく取り組んでいる。 ・集中力や根気をかけ、すぐに投げ出そうとする児童も少なからずおり、すべての児童に完成の喜びや達成感を持てるように指導援助していく。 ・学習意欲や理解力や実技の力も高い児童の為に、より高度な課題を設定し、生徒に歓声の喜びや達成感をもてるようにしたい。 ・学習指導要領の内容をさらに深く理解するとともに児童理解を進め、発達段階に応じた指導を徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く体勢づくり、話を聞くときには私語をしない、順番などの基礎的事項については、家庭科でも指導を徹底する。 ・児童観察と理解、それに対応した指導法を工夫する。 ・実習を通してあくまで、家庭生活全般への知識や理解を深め、基礎的技術を身につけさせ、家庭生活への意欲を高めたい。 ・課題をスモールステップに設定し、出来たことを認める。 ・教材と指導の実際について、他校の実践を参考にしながら

	<p>する必要がある。</p>	<p>ら教材研究を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 家庭科室の環境整備と教材見本の作成に取り組む。 • 中学校家庭科にスムーズに適應できるように、テストの実施やノート作り、学習の仕方を伝えていく。
<p>道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 道徳的価値について、その大切さを理解していても、それを実生活の中で生かすことに課題がある。 • 自分の考えを伝えることはできるが、自分とは異なる考えを受け入れたり、自分の考えを深めたりするまでには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の生活をふり返りながら、これからの生活や生き方について考えられるように、資料を精選し、主題を設定する。また、道徳授業を学級活動や各教科とも関連付けて、道徳授業での学びが生かされるようにしていく。 • 児童の多様な考えが引き出せるような資料を選び、「何について議論するのか」という点が明確になるように発問を吟味したうえで、対話的な学びを展開させる。
<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 外国語の書く学習に対して、自分が伝えたいことを伝えようと意欲的に取り組む児童は多い。 • 英語で聞かれたことに対して、積極的に表現しようとする児童は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 文法や単語を日本語と関連させながら考えられるようにし、繰り返し発音したり書いたりすることで、基礎的な知識を身につけることができるようにしていく。 • パフォーマンステスト（スピーチ）を通して、自分が伝えたいことを英語で表現する機会を増やしていく。